

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	港湾空港局
							担当課	整備保全課
							課長名	武智
事業名	海岸(高潮)事業						施策番号	
							II - 1 - (4) - ④	
事業概要	災害に強い都市づくりの一環として、高潮等の災害から市民の生命や財産を守るために、臨海部において護岸整備を行います。						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人	
		65,000 千円	千円			5,650 千円	係長 0.15 人 職員 0.40 人	
							(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 新門司北地区北護岸及び白野江地区護岸整備は、H25年度から事業を開始し、予定どおり進んでおり、目標年度の完成に向けて、引き続き護岸整備を進めています。	見直し内容	今後も災害に強い都市づくりを進めるため、引き続き護岸整備を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市民生活や企業活動	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 台風や高潮等の災害時に人々が安全で安心な生活を送れる状態を目指します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	新門司北地区北護岸整備による後背地防護面積	-	単年度目標設定なし			
	新門司北地区において、北側臨海部の護岸全体を完成させることにより、高潮等の災害から防護する後背地の面積を指標とします。 (最終目標と目標年度) 防護面積: 51ha 平成29年度					
	白野江地区護岸整備による後背地防護面積	-	単年度目標設定なし			
白野江地区において、臨海部の護岸全体を完成させることにより、高潮等の災害から防護する後背地の面積を指標とします。 (最終目標と目標年度) 防護面積: 14ha 平成28年度						

活動計画	どうやって目的を達成するか 災害対策の重要性の高まりを受け、過去に災害を受けた地区において、臨海部の護岸整備を早急に実施する必要があると考えています。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	新門司北地区北護岸 整備延長	346 m	135 m		
	新門司北地区北護岸の整備延長を指標として設定します。				
	白野江護岸 整備延長	131 m	80 m		
白野江地区護岸の整備延長を指標として設定します。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	港湾空港局
							担当課	計画課
							課長名	青木
事業名	国直轄事業負担金(耐震岸壁整備)						施策番号	
							II - 1 - (4) - ⑤	
事業概要	大規模震災時にも物資等の海上輸送機能を確保するため、耐震強化岸壁を整備します。						事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
								()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人	(人件費備考)	
		40,000 千円	千円		2,900 千円	係長 0.10 人 職員 0.10 人		

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	耐震岸壁の整備については、事業が予定通り進んでいるため、活動の状況は「順調」としてはいますが、今後の整備については、国との調整が課題です。	見直し内容 全体計画5箇所のうち、2箇所目の岸壁整備は、26年度に完了しました。3箇所目の岸壁整備についても、国と連絡調整を密に行い、事業の進捗を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況		
	北九州港の臨海部防災拠点	地震などによる大規模災害時に、市及び周辺地域の経済や生活を支える物資等の海上輸送機能が確保されている状態を目指します。		-		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	臨海部防災拠点を構成する耐震化岸壁の整備	1	パス			
	「大規模災害時における物資等の海上輸送機能が確保されている状態」を表す代替の指標として、臨海部防災拠点を構成する岸壁の耐震化の進捗状況で検討を行います。平成30年度前半までに岸壁5パースの耐震化を目指します。			単年度目標設定なし		
	(最終目標と目標年度) 岸壁5パースの耐震化(平成30年代前半)					

活動計画	どうやって目的を達成するか	臨海部防災拠点を形成する耐震強化岸壁の適切な配置・整備について、23年度の港湾計画の改訂に位置づけ(既設を含む5箇所)が完了しており、今後は位置つけた耐震強化岸壁の整備を、国等と協力して進めていきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	
	西海岸地区の耐震強化岸壁の整備(3パース目)	-	%			
	北九州港で3つ目の耐震強化岸壁整備の事業の進捗率を指標として設定します。			3 %		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	港湾空港局
							担当課	開発課
							課長名	上村
事業名	新・海辺のマスタープラン推進事業						施策番号	
							Ⅲ - 1 - (2) - ③	
事業概要	H23年5月に策定した「新・海辺のマスタープラン」における2つの目標(「利用できる海辺を増やす」「親しまれる度合いを高める」)を実現するための様々な取り組みについて、その検証及びプランの進捗管理等を行います。						事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額		課長 0.06 人
		1,642 千円	千円			6,940 千円		係長 0.25 人 職員 0.50 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	平成25年度の評価結果を受け、市民の港や海辺に対する満足度が高まるように、市民が海や港に接する機会を増やし、魅力を感じるきっかけを作るなど、幅広い施策に取り組んでいく必要があると考えます。	見直し内容
			「新・海辺のマスタープラン」は平成23年度から10か年の計画ですが、計画の策定から5年が経過する27年度に、社会経済情勢の変化や市民意識の変化など踏まえ、計画の中間見直しを行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民および、北九州市の港や海辺を訪れる来訪者	多くの人々が、海辺を舞台に憩い、学び、遊ぶことのできる魅力ある海辺を目指します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) <small>(上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)</small> 市民が、北九州市の港や海辺について満足している割合 市民アンケートで、市民が、北九州市の港や海辺について満足している割合をモニタリングします。(調査は、毎年度行います) (最終目標と目標年度) 75%(平成32年度)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 33.6 %	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
			平成26年度の割合より増加していること		

活動計画	どうやって目的を達成するか 「新・海辺のマスタープラン」は計画の策定から5年が経過しており、これまでの各事業の進捗状況を検証するとともに、毎年度行なっている上記市民アンケートとは別に、市民ニーズの把握のアンケート調査を行ない、社会経済情勢の変化や市民意識の変化を踏まえた計画の見直しを行なうことで、本プランをさらに推進していきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) <small>(上段: 指標名 下段: 指標の説明)</small> 市民ニーズ把握のためのアンケートの実施とその結果に基づく計画の見直し 毎年度行なっている上記市民アンケートとは別に、港や海辺についての詳細なアンケート調査を行い、その結果を元に、目標年次である32年度までの5年間で、市民の港や海辺に対する満足度をより高めていく計画にします。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 -	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
			市民アンケートの実施と見直し案の作成		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	港湾空港局	
						担当課	整備保全課	
						課長名	武智	
事業名	港湾施設整備事業(緑地整備)					施策番号		
						Ⅲ - 1 - (2) - ③		
事業概要	水際線において、海辺の眺望や親水空間を備えた緑地を整備することにより、市民に安らぎや憩いの空間を提供することを目指します。					事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費		目安の金額	課長 0.10 人
		155,400 千円	千円				3,650 千円	係長 0.10 人 職員 0.20 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	新門司北地区緑地C(津村島)は、平成25年度に完成し、供用開始しました。新門司東緑地と響灘南緑地については、引き続き整備を進めます。	見直し内容
			今後も市民に安らぎや憩いの親水空間を提供する緑地整備を引き続き行います。また、平成27年度から新門司北緑地と砂津緑地の整備に着手し、新門司北緑地は平成33年度、砂津緑地は平成31年度の完成を目指します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	
	市民	市民が海辺の緑地と親しみ憩える状態を目指します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	市民が海辺と親しみ憩うための緑地整備	-	単年度目標設定なし		
	市民が海辺と親しみ憩えるよう整備する4地区の緑地(新門司北地区東緑地、新門司北地区北緑地、砂津地区緑地、響灘東地区南緑地)について、地区単位での整備を目標とします。				
	(最終目標と目標年度) 4地区の緑地整備 平成33年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか	市民が親しめる水際線の早期整備を達成するため、新門司東緑地は平成28年度、響灘南緑地については平成31年度の完成を目指して、緑地の整備を進めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	新門司東緑地 緑地整備延長	92 m	14 m		
	新門司北地区東緑地の緑地整備延長を指標として設定				
	響灘南緑地 緑地整備延長	479 m	83 m		
響灘東地区南緑地の緑地整備延長を指標として設定					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	港湾空港局
							担当課	立地促進課
							課長名	野間
事業名	企業誘致活動事業						施策番号	
事業概要							IV - 1 - (2) - ①	
コスト	事業費	27年度当初予算額 9,045 千円	27年度執行額 千円	(事業費備考)	人件費	目安の金額 28,700 千円	課長 0.30 人 係長 1.10 人 職員 1.90 人	(人件費備考)

- 事業手法**
- 直営 補助金
 - 全部委託 負担金
 - 一部委託 指定管理
 - その他

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	活動指標として挙げていた「企業訪問」活動は順調であるものの、目標の「企業立地件数」に達することができませんでした。最近では景気が上向き、企業の設備投資の動向も上向いていることから、このチャンスを逃すことのないよう戦略的な活動が求められます。	見直し内容 「マリナクロス新門司」を重点取組み地区とする「北九州市臨海部産業用地分譲推進本部」を設置し、土地売却に向けた戦略的活動をまとめた「マリナクロス新門司の分譲計画」を策定しました。今後は、この分譲計画に基づき、市役所一丸となつての分譲地の売却を推進していきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 環境・エネルギー産業や自動車関連産業などの企業	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 充実した港湾インフラや「環境未来都市」「グリーンアジア国際戦略総合特区」など本市の強みを活かすことのできる企業の集積を図ります。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 臨海部産業用地への企業立地件数(累計) 臨海部産業用地の分譲や港湾インフラの利用促進のため、企業誘致活動に努め、平成26年度以降毎年度4件、平成30年度までに累計で20件の企業立地を目標とします。 (最終目標と目標年度) 20件 (平成26年度～平成30年度)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 23 (H21～25年度) 件	27年度目標 8 (H26～27年度) 件	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由

活動計画	どうやって目的を達成するか 本市の持つ充実した港湾インフラを活用する国内外の物流拠点、環境・エネルギー産業や自動車関連産業などの製造拠点の集積を軸とし、投資マインドの改善が見込まれる企業をターゲットに誘致活動を行います。	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 企業訪問件数 企業訪問により企業を取り巻く経済環境を調査し、立地可能性の高い企業への立地提案や既存企業への事業拡張の提案を行い、積極的な誘致活動へ努めます。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 515 件	27年度目標 400 件	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
-------------	---	---	-----------------------------------	------------------------	--------------------	------------------

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	港湾空港局
						担当課	立地促進課・計画課
事業名						課長名	野間・青木
						事業概要	
響灘洋上風力発電拠点化推進事業						IV - 1 - (3) - ①	
事業概要						事業手法	
港湾空港局では、響灘地区のポテンシャルを活かし、平成22年度より風力発電関連産業の集積を図る『グリーンエネルギーポートひびき』事業を進めており、本事業の更なる推進にあたっては、今後拡大が見込まれる洋上風力発電に対応した環境整備が急務となります。そこで、響灘沖洋上ウインドファームの形成をインセンティブに関連産業の集積を進め、国内における“洋上風力の総合拠点”の形成を目指していきます。						<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.20 人	
		10,000 千円	千円		19,050 千円	係長 0.70 人 職員 1.30 人	
						(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	平成26年度予算において、洋上風力発電の需要予測及び、響灘海域でのゾーニングの調査を行っています。平成26年度開始事業の為、評価結果は出ておりませんが、今後の課題としては、風力発電産業の洋上化・大型化への変化への対応があげられます。	見直し内容
			平成26年度実施の調査結果を受け、平成27年度には洋上風力発電事業者の公募を行うこととしています。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	洋上風力発電	響灘沖の港湾区域内において、洋上風力発電の適地を設定し、発電事業者を公募・選定します。 また、これをインセンティブに洋上向け大型風車の製造から搬出まで可能な洋上風力の総合拠点としての環境を整備し、響灘沖での洋上風力発電の導入と関連産業の集積を図ります。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	風力発電関連施設の立地	-	洋上風力発電事業者の選定		
	響灘地区に風力発電関連施設の立地を進めます ※適地選定等、事前の調査検討が前提となるため、数値化不可 洋上風力発電事業者の選定(27年度)、周辺環境調査(27~28年度)、適地選定(27年度)、関連産業の立地(27年度~33年度) (最終目標と目標年度) 風力発電関連産業の立地(平成33年度)				

活動計画	どうやって目的を達成するか	平成26年度に「響灘地区洋上風力発電導入エリア調整会議」を設立。洋上風力発電のためのゾーニングを行い、平成27年度にはその結果に基づき発電事業者を公募します。これに付随して関連産業の立地を目指します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	公募要項設定のための関連する有識者・企業等へのヒアリング調査	-	10 社		
	平成26年度に洋上風力発電関連企業や有識者にヒアリングを実施し、その結果を基に平成27年度に要項を設定、発電事業者を公募します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	港湾空港局
							担当課	立地促進課
事業名							課長名	野間
							施策番号	
事業概要	臨海部産業団地の分譲を促進するため、充実した港湾インフラや「環境未来都市」「グリーンアジア国際戦略総合特区」など本市の強みを活かすことのできる企業に対し、積極的に誘致活動を行います。						事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.30 人	(人件費備考)
		9,045 千円	千円			28,700 千円	係長 1.10 人	
							職員 1.90 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	活動指標として挙げていた「企業訪問」活動は順調であるものの、目標の「企業立地件数」に達することができませんでした。最近では景気が上向き、企業の設備投資の動向も上向いていることから、このチャンスを逃すことのないよう戦略的な活動が求められます。	見直し内容 「マリナクロス新門司」を重点取組み地区とする「北九州市臨海部産業用地分譲推進本部」を設置し、土地売却に向けた戦略的活動をまとめた「マリナクロス新門司の分譲計画」を策定しました。今後は、この分譲計画に基づき、市役所一丸となつての分譲地の売却を推進していきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象 (誰を、何を) 環境・エネルギー産業や自動車関連産業などの企業	目指す状態 (どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 充実した港湾インフラや「環境未来都市」「グリーンアジア国際戦略総合特区」など本市の強みを活かすことのできる企業の集積を図ります。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	臨海部産業用地への企業立地件数(累計)	23 (H21~25年 件 度)	8 (H26~27 件 年度)		
	臨海部産業用地の分譲や港湾インフラの利用促進のため、企業誘致活動に努め、平成26年度以降毎年度4件、平成30年度までに累計で20件の企業立地を目標とします。 (最終目標と目標年度) 20件 (平成26年度~平成30年度)				

活動計画	どうやって目的を達成するか 本市の持つ充実した港湾インフラを活用する国内外の物流拠点、環境・エネルギー産業や自動車関連産業などの製造拠点の集積を軸とし、投資マインドの改善が見込まれる企業をターゲットに誘致活動を行います。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	企業訪問件数	515 件	400 件		
	企業訪問により企業を取り巻く経済環境を調査し、立地可能性の高い企業への立地提案や既存企業への事業拡張の提案を行い、積極的な誘致活動へ努めます。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	港湾空港局
						担当課	総務課
						課長名	吉村
事業名	クルーズ客船の誘致					施策番号	
						IV - 4 - (3) - ①	
事業概要	海外で開催されるコンベンションへの出展や、配船決定のキーパーソンの招へい、代理店や船社への商品提案などによる直接営業を通じ、国内外のクルーズ客船の寄港を促進します。 また、船社が寄港地を決定したり、発着のクルーズ商品を造成する際に重要視する、乗船客における港への高い評価と、港背後のクルーズ人口の増加のために、客船寄港時には、おもてなしイベント等を展開します。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.40 人 係長 0.70 人 職員 0.70 人
		7,714 千円	千円			16,850 千円	(人件費備考)

【Action】改善

課題	H25年度の評価結果を受けての課題 ・旅行代理店によるチャーターが盛んになってきたため、旅行代理店へ営業を行うことにより、クルーズ船の寄港数増の可能性が出てきました。 ・門司港からの乗客数が確保できれば、門司発着商品の造成を提案できるため、クルーズファンを増やすために、市民へクルーズの魅力を紹介する機会が必要です。	見直し内容	・これまでの営業先(船社及び販売相互代理店)から、客船をチャーターしている旅行会社へも広げ、積極的に営業を行っていきます。 ・市民がクルーズを身近に感じることができるよう、様々な機会をとらえ、その魅力を広くアピールします。
-----------	--	--------------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を) 船社、旅行代理店	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 船社: 門司発着の商品を定期的に造成する状態 旅行代理店: 門司寄港のチャータークルーズ商品を定期的に造成する状態	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) クルーズ客船の寄港数 日本、外国船がともに寄港することを目指します。 (最終目標と目標年度) 平成32年度までに年間20回	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 27年度目標 5 回 5 回	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由

活動計画	どうやって目的を達成するか	・引き続き、船社や販売代理店への直接営業を行い、門司港や観光地の魅力をアピールします。 ・チャータークルーズを行う旅行代理店を調査し、積極的に営業をかけます。 ・市民を対象とし、クルーズの魅力を発信するとともに、その活動について、船社や代理店に広くアピールします。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 旅行代理店営業回数 チャータークルーズを行っている、もしくは可能性のある旅行代理店へ、積極的に営業をかけます。 市民へのPR活動実施回数 セミナー開催や、船内一般公開など、様々な形態でクルーズに触れる機会を提供します。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 27年度目標 1 回 7 回 4 回 6 回	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	港湾空港局
							担当課	総務課
							課長名	相良
事業名	北九州港市民PR事業						施策番号	
							IV - 4 - (3) - ②	
事業概要	広く市民に港や海に親しんでもらい、北九州港の賑わいを創出するため、帆船の一般公開などを開催するほか、北九州港内で開催される花火大会を支援します。						事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
								()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.10 人	
		14,626 千円	千円		8,650 千円	係長	0.30 人	
							(人件費備考)	
							職員	0.60 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	平成25年度の評価結果が「順調」であったため、その取組みを継続します。さらに、イベントの開催や情報発信についての北九州港の賑興にかかる関係団体との連携強化や、実施したイベントの検証により、より安全・安心で効果的なイベントの企画・運営を図ることが課題です。	見直し内容 関係団体との連携を強化し、そのネットワークやノウハウを有効に活用することで、安全・安心かつ効果的なイベント開催や情報発信を行います。また、イベント参加者を対象にしたアンケートにより、イベントの効果や市民ニーズを把握し、次回開催時に企画・運営に取り入れ、目標を達成します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民など	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 関係団体との連携強化や、実施したイベントの検証を行うことにより、安全・安心な魅力のあるイベントの開催や情報発信を行います。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 安全・安心なイベントの実施	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 達成	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	関係団体と連携することで、多くの市民等が参加するイベントを、事故等なく運営するという目標を設定しました。 (最終目標と目標年度) 事故等のないイベント運営	-	事故等のないイベント運営		
	北九州港内におけるイベント参加者の満足度 イベントの参加者へのアンケートにより把握した満足度を指標とし、すべての参加者に満足してもらうようなイベント運営を目指し、目標を設定しました。 (最終目標と目標年度) 80%以上 毎年度	-	80%以上		

活動計画	どうやって目的を達成するか 広く市民に港や海へ親しんでもらうため、北九州港内において魅力あるイベントを実施します。また、北九州港内に関する様々な情報発信に努め、北九州港の知名度アップを図ります。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 北九州港内におけるイベント等の年間実施件数	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 27 件	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	花火大会や帆船の一般公開等のイベントを関係団体と連携して実施し、北九州港の賑わい創出に努めます。	-	27 件		
	北九州港の周知・PR 関係団体のネットワークやノウハウを活用し、ポスター・チラシ、インターネット等様々なコンテンツで北九州港についてより広く、効果的に情報発信します。	-	実施		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	港湾空港局
							担当課	整備保全課
事業名 響灘及び新門司埋立地整備等事業							課長名	武智
							施策番号	
事業概要 企業立地の円滑化を図るため、響灘東及び響灘西、並びに新門司臨海部土地造成事業計画に基づき、インフラ整備を行います。							事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
								(事業費備考)
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	目安の金額	課長	0.10 人		
		212,420 千円	千円	4,400 千円	係長	0.10 人		
					職員	0.30 人		

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 企業立地に必要なインフラ整備を、優先順位をつけて整備していきます。	見直し内容	今後もインフラ整備を効率的に行うことにより、企業が進出できる環境を整備していきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 企業	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 埋立造成地において、インフラ整備を行うことにより、企業が進出できる環境を整備し、企業立地の促進を目指します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	臨海部産業用地への企業立地件数(累計)	23 (H21~25年 件 度)	8 (H26~27 件 年度)			
	臨海部産業用地の分譲や港湾インフラの利用促進のため、企業誘致活動に努め、平成26年度以降毎年度4件、平成30年度までに累計で20件の企業立地を目標とします。					
	(最終目標と目標年度) 20件 (平成26年度~平成30年度)					

活動計画	どうやって目的を達成するか 水道等のインフラ整備を行うことにより、企業が進出できる環境を整備します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	
	響灘東埋立地水道管 整備延長	-	210 m			
	響灘東埋立地のインフラ整備の代表として、同地の水道整備延長を指標として設定します。					
	響灘西埋立地雨水排水管 整備延長	-	144 m			
	響灘西埋立地の整備の指標として雨水排水管延長を設定します。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	港湾空港局
						担当課	空港企画課
事業名						課長名	小石
						事業概要	
北九州空港航空貨物拠点化事業						V - 1 - (3) - ③	
事業概要						事業手法	
24時間運用や税関・検疫空港の指定など、北九州空港の特性を活かし、開港以来、貨物拠点化に向け、福岡県や苅田町などの自治体及び地元経済団体と協力して空港機能強化のための活動を行っています。また、空港機能強化の根拠となる大型貨物機の就航実績を示すため助成制度等を活用し、航空会社への路線誘致や貨物利用運送事業者への集貨促進を行っています。						<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.40 人	
		179,324 千円	千円		16,475 千円	係長 0.70 人 職員 0.65 人	
						(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 航空貨物拠点化を進めるうえで、さらなる路線誘致、集貨促進が必要です。	見直し内容	現在就航している貨物定期便の就航維持や新たな貨物便の誘致を進めながら、事業開始から5年を経過した当該事業の見直しも含め、今後の貨物拠点化の取り組みについて検討を行い、航空貨物拠点化に向けた将来ビジョン実現のための戦略を策定します。このビジョンに基づき課題解決を進めていきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	対象(誰を、何を) 北九州空港	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 行政の補助制度無しに、航空物流に関するビジネスが民間企業間の経済活動となり、大型貨物機での輸送を必要とする貨物が集まり、この大型貨物機の就航もビジネスとして成立し、携わる企業等が活動可能な収益を上げられる便数が就航している状態です。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 航空貨物取扱量 集貨活動の成果として航空貨物取扱量を指標としました。最終目標は、北九州市新成長戦略で定めている目標のうち短期目標(5年程度)の貨物取扱量です。 (最終目標と目標年度)平成32年度 貨物取扱量30,000t/年度	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 15,060 t / 年度	27年度目標	17,000 t / 年度	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由

活動計画	どうやって目的を達成するか 航空会社や貨物利用運送事業者を訪問し、北九州空港利用のメリットについてPRをします。また、助成制度の活用を紹介することによって物流経路変更などのリスクを軽減させ実際の利用へ結び付けます。これらの活動により航空貨物取扱量を増加させます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 貨物利用運送事業者数 就航便を利用する貨物利用運送事業者に対して、重量助成制度を活用して航空貨物の誘致を行っています。 貨物チャーター便数 北九州空港への就航時に、近隣空港と比較して不足する施設や機能を補うために要する費用について助成を行い、貨物チャーター便の就航を促します。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 21 社 23 便	27年度目標	35 社 25 便	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	港湾空港局
							担当課	整備保全課
							課長名	武智
事業名	港湾施設整備事業(岸壁、物揚場、道路、橋梁等整備)						施策番号	
							V - 1 - (3) - ③	
事業概要	岸壁や道路等の老朽化した港湾施設について、適切な改良を加え、機能の維持・強化を行うことにより、施設利用者の安全性確保及び利便性向上を図ります。						事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
								()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人	
		229,119 千円	千円			5,150 千円	係長 0.10 人 職員 0.40 人	
							(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	市内の老朽化した港湾施設について、改良や補修を進めいくため、施設の老朽化の度合いや利用頻度に基づいて優先順位を定め、整備していきます。	見直し内容 今後も、港湾施設利用者の安全性確保及び利便性向上を図るため、施設の老朽化の度合いや利用頻度に基づいて優先順位を定め、改良や補修を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	
	港湾施設の利用者	老朽化した港湾施設に適切な改良を加え、機能の維持・強化を行うことにより、施設利用者の安全性確保及び利便性向上を目指します。		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	港湾施設利用者の安全性確保及び利便性向上	-	単年度目標設定なし		
	老朽化した港湾施設に適切な改良を加え、機能の維持・強化を行うことにより、施設利用者の安全性確保及び利便性向上を目指します				
	(最終目標と目標年度) 施設利用者の安全性確保及び利便性向上				

活動計画	どうやって目的を達成するか	老朽化した港湾施設それぞれに適した改良を行なうことにより、施設利用者の安全性確保及び利便性向上を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	太刀浦地区 道路改良延長	=	400 m		
	港湾施設整備の代表として、本市の産業や物流を支える重要な道路である太刀浦地区の道路舗装の改良延長を指標として設定します。				
	松ヶ島地区 物揚場改良延長	20 m	40 m		
港湾施設整備の代表として、松ヶ島地区の物揚場改良延長を指標として設定します。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	港湾空港局
						担当課	空港企画課
事業名 北九州空港航空貨物拠点化事業						課長名	小石
						施策番号	
事業概要 24時間運用や税関・検疫空港の指定など、北九州空港の特性を活かし、開港以来、貨物拠点化に向け、福岡県や苅田町などの自治体及び地元経済団体と協力して空港機能強化のための活動を行っています。また、空港機能強化の根拠となる大型貨物機の就航実績を示すため助成制度等を活用し、航空会社への路線誘致や貨物利用運送事業者への集貨促進を行っています。						<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
						コスト	
事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.40 人	(人件費備考)	
	179,324 千円	千円		16,475 千円	係長 0.70 人		
					職員 0.65 人		

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 航空貨物拠点化を進めるうえで、さらなる路線誘致、集貨促進が必要です。	見直し内容	現在就航している貨物定期便の就航維持や新たな貨物便の誘致を進めながら、事業開始から5年を経過した当該事業の見直しも含め、今後の貨物拠点化の取り組みについて検討を行い、航空貨物拠点化に向けた将来ビジョン実現のための戦略を策定します。このビジョンに基づき課題解決を進めていきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	対象(誰を、何を) 北九州空港	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 行政の補助制度無しに、航空物流に関するビジネスが民間企業間の経済活動となり、大型貨物機での輸送を必要とする貨物が集まり、この大型貨物機の就航もビジネスとして成立し、携わる企業等が活動可能な収益を上げられる便数が就航している状態です。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	航空貨物取扱量	15,060 t / 年度	17,000 t / 年度			
	集貨活動の成果として航空貨物取扱量を指標としました。最終目標は、北九州市新成長戦略で定めている目標のうち短期目標(5年程度)の貨物取扱量です。 (最終目標と目標年度)平成32年度 貨物取扱量30,000t/年度					

活動計画	どうやって目的を達成するか 航空会社や貨物利用運送事業者を訪問し、北九州空港利用のメリットについてPRをします。また、助成制度の活用を紹介することによって物流経路変更などのリスクを軽減させ実際の利用へ結び付けます。これらの活動により航空貨物取扱量を増加させます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	
	貨物利用運送事業者数	21 社	35 社			
	就航便を利用する貨物利用運送事業者に対して、重量助成制度を活用して航空貨物の誘致を行っています。					
	貨物チャーター便数	23 便	25 便			
	北九州空港への就航時に、近隣空港と比較して不足する施設や機能を補うために要する費用について助成を行い、貨物チャーター便の就航を促します。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	港湾空港局
							担当課	空港企画課
事業名							課長名	酒井
							施策番号	
事業概要							事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
								()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.20 人		
		46,400 千円	千円		10,050 千円	係長 0.40 人 職員 0.50 人		
							(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 北九州空港唯一の国際線が平成26年3月30日より運休となり、一方国内線も羽田路線のみであり、北九州空港の利用促進のため新規路線誘致が喫緊の課題です。	見直し内容	あらゆる可能性を想定し、数多くの航空会社と交渉の機会を持ち、さらに可能性のある航空会社に対しては、ニーズに合わせたインセンティブや福岡都市圏からのアクセスについても検討していきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 北九州空港	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 北九州空港の利用促進のため、路線の誘致を実施し、路線数が増加して、市民の利便性が向上する状態	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	国際定期路線を維持・拡大	1 路線	1 路線		
	国際定期路線の維持・拡大を図ります。 (最終目標と目標年度) 平成32年度 2路線				
	国内定期路線を維持・拡大	1 路線	1 路線		
	国内定期路線の維持・拡大を図ります。 (最終目標と目標年度) 平成32年度 2路線				

活動計画	どうやって目的を達成するか 新規路線拡充のため、航空会社へ誘致活動を行います。特に、定期便につながるチャーター便を積極的に誘致します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	国際チャーター便数	96 便	80 便		
	新規国際路線の就航を目指し、市場調査や就航時の問題点などの把握のため、チャーター便を誘致します。				
	国内チャーター便数	36 便	30 便		
	新規国内路線の就航を目指し、市場調査や就航時の問題点などの把握のため、チャーター便を誘致します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	港湾空港局	
						担当課	物流振興課	
						課長名	三ッ廣	
事業名	北九州港集貨航路誘致事業					施策番号		
						V - 2 - (1) - ②		
事業概要	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行います。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費		目安の金額	課長 1.00 人
		68,179 千円	千円				67,000 千円	係長 1.80 人 職員 5.00 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	平成25年における北九州港海上出入貨物取扱量は、10,053万トン(前年比101.7%)となり1億トンの大台を超え、平成27年目標に向けて順調に成果が表れています。コンテナ貨物取扱量に関しては、48万8千TEU(前年比96.4%)とこの数年横ばいで推移しています。	見直し内容 従来の活動に加え、荷主企業により異なる物流ニーズに対し、輸送形態も含め柔軟な集貨活動を行います。特に新規立地企業に対する物流提案に力を入れるなどして、北九州港の利用拡大を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 北九州港	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 物流改善等による北九州港への貨物集約(集貨)、背後地への企業進出による新規貨物の創出(創貨)、北九州港へ寄港する船会社・航路の増加(航路誘致)を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	北九州港海上出入貨物取扱量(暦年)	10,053 万t	10,900 万t		
	様々な物流振興施策を実施することで、港湾貨物取扱量の増加を図ります。この目標値は、「北九州市物流拠点化戦略基本方針」に定められています。 (最終目標と目標年度) 10,900万t 平成27年				

活動計画	どうやって目的を達成するか 荷主・船社のニーズの把握や、そのニーズに即応する体制を強化するとともに、北九州港利用促進のため、創貨の観点も踏まえ、引き続き集貨や航路誘致を着実に進めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	船社、荷主等への企業訪問件数(単年度)	270 件	300 件		
	積極的な企業訪問を実施し、荷主や船社の動向を把握すると同時に、関係する企業との信頼関係を構築していきます。その結果、北九州港における貨物量の増加や航路充実の実現を目指します。				
北九州港プロモーション活動参加者数(単年度)	679 人	800 人			
視察会や港湾セミナー等のプロモーション活動を展開し、北九州港に興味を持つ、あるいは利用の可能性のある企業に対し、北九州港の認知度を高め、貨物量の増加や航路誘致実現へと結び付けていきます。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	港湾空港局
							担当課	整備保全課
							課長名	武智
事業名	太刀浦埠頭用地整備事業						施策番号	
							V - 2 - (1) - ②	
事業概要	太刀浦コンテナターミナル内の舗装の損傷が著しい箇所について補修を行うとともに、未舗装の荷さばき地、野積場について舗装を行うことで、荷役作業の安全性確保と効率化を図ります。						事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額		課長 0.10 人 係長 0.10 人 職員 0.20 人
		200,000 千円				3,650 千円		

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	太刀浦埠頭全体において舗装の劣化が進行しており、全体的なヤード舗装の補修が必要となっています。また、未舗装の箇所の舗装も必要です。	見直し内容
			平成26年度から太刀浦埠頭全体のヤード舗装の補修を行うとともに、未舗装の荷さばき地、野積場の舗装を行っており、目標年度の完成に向けて、引き続き整備を進めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	
	コンテナヤード等利用者	コンテナヤード等の舗装補修や未舗装箇所の舗装を行うことにより、荷役作業の安全性確保と効率化を目指します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	荷役作業の安全性確保と効率化	-	単年度目標設定なし		
	コンテナヤード等の舗装補修や未舗装箇所の舗装を行うことにより、荷役作業の安全性確保と効率化を目指します。				
	(最終目標と目標年度) コンテナヤード等の整備 平成31年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか	太刀浦第1及び第2コンテナターミナル内のヤード舗装や未舗装の荷さばき地、野積場について、平成26年度から6ヶ年をかけて舗装補修を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	
	コンテナヤード舗装補修面積	-	単年度目標設定なし			
	太刀浦第1、第2コンテナターミナル内のヤード舗装について、その舗装補修面積を指標として設定。			13,520 m ²		
	荷さばき地及び野積場舗装面積	-				
未舗装の荷さばき地、野積場について、その舗装面積を指標として設定。						

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	港湾空港局
							担当課	物流振興課
事業名							課長名	中嶋
							事業概要	
国際RORO航路誘致事業							事業手法	
完成自動車や自動車部品等の海上輸送を行うRORO船(トレーラー等の車両が自走で乗り込んで貨物の搬出入が可能な貨物船)を新規に就航させた船社に対し、補助金を交付します。							<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人	(人件費備考)	
		13,200 千円	千円		4,650 千円	係長 0.20 人 職員 0.20 人		

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	市内の臨海部において、自動車関連産業の物流拠点が集積しています。この動きを加速させるためには、完成自動車や自動車部品等の海上輸送を行う国際RORO航路を誘致することが必要です。	見直し内容 平成27年度 新規事業

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	自動車に関するPCC・RORO船	北九州港への新規就航と、貨物取扱量の増加を目指します			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	新規航路開設数	-	1 航路		
	平成27年度は1航路の開設を目標とします。	-			
	(最終目標と目標年度) 平成29年までに3航路				

活動計画	どうやって目的を達成するか 本市の充実した物流基盤に加え、事業の継続可能性、安価なコスト、東九州自動車道の開通によるアクセス向上等、北九州港を利用するメリットについて、本市内外の企業に広くPRを行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	船社、荷主等への企業訪問件数	-	300 件		
	積極的な企業訪問を実施し、荷主や船社の動向を把握すると同時に、関係する企業との信頼関係を構築し、新規航路の開設を目指します。	-			
	北九州港プロモーション活動参加者数	-	800 人		
	視察会や港湾セミナー等のプロモーション活動を展開し、荷主や船社をはじめ、北九州港利用の可能性のある企業に対し、北九州港の認知度を高め、新規航路の開設へ結び付けていきます。	-			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	港湾空港局
						担当課	物流振興課
						課長名	三ッ廣
事業名	北九州港集貨航路誘致事業					施策番号	
						V - 2 - (1) - ③	
事業概要	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行います。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 1.00 人 係長 1.80 人 職員 5.00 人
		68,179 千円	千円			67,000 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	平成25年における北九州港海上出入貨物取扱量は、10,053万トン(前年比101.7%)となり1億トンの大台を超え、平成27年目標に向けて順調に成果が表れています。コンテナ貨物取扱量に関しては、48万8千TEU(前年比96.4%)とこの数年横ばいで推移しています。	見直し内容 従来の活動に加え、荷主企業により異なる物流ニーズに対し、輸送形態も含め柔軟な集貨活動を行います。特に新規立地企業に対する物流提案に力を入れるなどして、北九州港の利用拡大を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 北九州港	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 物流改善等による北九州港への貨物集約(集貨)、背後地への企業進出による新規貨物の創出(創貨)、北九州港へ寄港する船会社・航路の増加(航路誘致)を目指します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	北九州港海上出入貨物取扱量(暦年)	10,053 万t	10,900 万t		
	様々な物流振興施策を実施することで、港湾貨物取扱量の増加を図ります。この目標値は、「北九州市物流拠点化戦略基本方針」に定められています。 (最終目標と目標年度) 10,900万t 平成27年				

活動計画	どうやって目的を達成するか	荷主・船社のニーズの把握や、そのニーズに即応する体制を強化するとともに、北九州港利用促進のため、創貨の観点も踏まえ、引き続き集貨や航路誘致を着実に進めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	船社、荷主等への企業訪問件数(単年度)	270 件	300 件		
	積極的な企業訪問を実施し、荷主や船社の動向を把握すると同時に、関係する企業との信頼関係を構築していきます。その結果、北九州港における貨物量の増加や航路充実の実現を目指します。				
北九州港プロモーション活動参加者数(単年度)	679 人	800 人			
視察会や港湾セミナー等のプロモーション活動を展開し、北九州港に興味を持つ、あるいは利用の可能性のある企業に対し、北九州港の認知度を高め、貨物量の増加や航路誘致実現へと結び付けていきます。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	港湾空港局
							担当課	空港企画課
事業名 北九州空港新規路線就航促進事業							課長名	酒井
							施策番号	
事業概要 北九州市民の利便性向上のため、国内・国際定期便の新規就航及び既存路線の定着を図ることを目標に、路線誘致活動を行います。							事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
								()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.20 人	(人件費備考)	
		46,400 千円	千円		10,050 千円	係長 0.40 人 職員 0.50 人		

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 北九州空港唯一の国際線が平成26年3月30日より運休となり、一方国内線も羽田路線のみであり、北九州空港の利用促進のため新規路線誘致が喫緊の課題です。	見直し内容	あらゆる可能性を想定し、数多くの航空会社と交渉の機会を持ち、さらに可能性のある航空会社に対しては、ニーズに合わせたインセンティブや福岡都市圏からのアクセスについても検討していきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 北九州空港	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 北九州空港の利用促進のため、路線の誘致を実施し、路線数が増加して、市民の利便性が向上する状態です。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	国際定期路線を維持・拡大	1 路線	1 路線		
	国際定期路線の維持・拡大を図ります。 (最終目標と目標年度) 平成32年度 2路線				
	国内定期路線を維持・拡大	1 路線	1 路線		
国内定期路線の維持・拡大を図ります。 (最終目標と目標年度) 平成32年度 2路線					

活動計画	どうやって目的を達成するか 新規路線拡充のため、航空会社へ誘致活動を行います。特に、定期便につながるチャーター便を積極的に誘致します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	国際チャーター便数	96 便	80 便		
	新規国際路線の就航を目指し、市場調査や就航時の問題点などの把握のため、チャーター便を誘致します。				
	国内チャーター便数	36 便	30 便		
新規国内路線の就航を目指し、市場調査や就航時の問題点などの把握のため、チャーター便を誘致します。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	港湾空港局	
						担当課	物流振興課	
						課長名	三ッ廣	
事業名	北九州港集貨航路誘致事業					施策番号		
						V - 3 - (2) - ①		
事業概要	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行います。					事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費		目安の金額	課長 1.00 人 係長 1.80 人 職員 5.00 人
		68,179 千円	千円				67,000 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	平成25年における北九州港海上出入貨物取扱量は、10,053万トン(前年比101.7%)となり1億トンの大台を超え、平成27年目標に向けて順調に成果が表れています。コンテナ貨物取扱量に関しては、48万8千TEU(前年比96.4%)とこの数年横ばいで推移しています。	見直し内容 従来の活動に加え、荷主企業により異なる物流ニーズに対し、輸送形態も含め柔軟な集貨活動を行います。特に新規立地企業に対する物流提案に力を入れるなどして、北九州港の利用拡大を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	北九州港	物流改善等による北九州港への貨物集約(集貨)、背後地への企業進出による新規貨物の創出(創貨)、北九州港へ寄港する船会社・航路の増加(航路誘致)を目指します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	北九州港海上出入貨物取扱量(暦年) 様々な物流振興施策を実施することで、港湾貨物取扱量の増加を図ります。この目標値は、「北九州市物流拠点化戦略基本方針」に定められています。 (最終目標と目標年度) 10,900万t 平成27年	10,053 万t	10,900 万t		

活動計画	どうやって目的を達成するか 荷主・船社のニーズの把握や、そのニーズに即応する体制を強化するとともに、北九州港利用促進のため、創貨の観点も踏まえ、引き続き集貨や航路誘致を着実に進めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	船社、荷主等への企業訪問件数(単年度) 積極的な企業訪問を実施し、荷主や船社の動向を把握すると同時に、関係する企業との信頼関係を構築していきます。その結果、北九州港における貨物量の増加や航路充実の実現を目指します。	270 件	300 件		
	北九州港プロモーション活動参加者数(単年度) 視察会や港湾セミナー等のプロモーション活動を展開し、北九州港に興味を持つ、あるいは利用の可能性のある企業に対し、北九州港の認知度を高め、貨物量の増加や航路誘致実現へと結び付けていきます。	679 人	800 人		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	港湾空港局
							担当課	開発課
							課長名	上村
事業名	響灘東地区処分場整備事業						施策番号	
							VI - 3 - (1) - ②	
事業概要	北九州港内の航路・泊地の整備及び維持から発生する浚渫土砂、市民生活や市内中小企業の産業活動から発生する廃棄物等を最終的に処分する海面処分場(響灘東地区処分場)を整備します。						事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.50 人	
		59,500 千円	千円		39,500 千円	係長	1.50 人	
							職員	2.50 人
(人件費備考) 担当課の他、計画課の係長、職員の人件費を含んでいます。								

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	既存の廃棄物処分場及び土砂処分場の容量が残り少なくなっており、新たな処分場の確保が喫緊の課題となっています。 新規の廃棄物処分場及び土砂処分場を整備することにより、快適な市民生活と企業の産業活動を支援します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民生活、企業の産業活動	快適な市民生活、企業の活発な産業活動を支援します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	廃棄物処分場の確保 生活環境を良好な状態に保全するため、長期且つ安定的な廃棄物処分場の確保を指標としました。 (最終目標と目標年度) 廃棄物の受入開始 平成34年度	-	単年度目標設定なし		
	土砂処分場の確保 企業の安全・安心、円滑な物流機能を確保するため、航路・泊地等の浚渫土砂を受入れる土砂処分場の確保を指標としました。 (最終目標と目標年度) 浚渫土砂の受入開始 平成35年度	-	単年度目標設定なし		

活動計画	どうやって目的を達成するか 響灘東地区処分場(廃棄物処分場、土砂処分場)を整備するために必要不可欠な環境アセスメント、護岸設計等の各種手続きを実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標
	環境影響評価法に基づく手続き資料の作成 環境影響評価法に基づく手続きの資料を作成します。	実施	護岸構造の決定に伴う環境保全図書の修正
	埋立護岸の設計 工事発注に向け、細部設計、施工数量の算出及び工事図面の作成を行います。	-	実施設計

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	港湾空港局	
						担当課	開発課	
						課長名	上村	
事業名	新・海辺のマスタープラン推進事業					施策番号		
						VI - 4 - (1) - ②		
事業概要	H23年5月に策定した「新・海辺のマスタープラン」における2つの目標(「利用できる海辺を増やす」「親しまれる度合いを高める」)を実現するための様々な取り組みについて、その検証及びプランの進捗管理等を行います。					事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費		目安の金額	課長 0.06 人 係長 0.25 人 職員 0.50 人
		1,642 千円	千円				6,940 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	平成25年度の評価結果を受け、市民の港や海辺に対する満足度が高まるように、市民が海や港に接する機会を増やし、魅力を感じるきっかけを作るなど、幅広い施策に取り組んでいく必要があると考えます。	見直し内容
			「新・海辺のマスタープラン」は平成23年度から10か年の計画ですが、計画の策定から5年が経過する27年度に、社会経済情勢の変化や市民意識の変化など踏まえ、計画の中間見直しを行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	成果の状況評価理由
	市民および、北九州市の港や海辺を訪れる来訪者	多くの人々が、海辺を舞台に憩い、学び、遊ぶことのできる魅力ある海辺を目指します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)		上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)
	市民が、北九州市の港や海辺について満足している割合		33.6 %	平成26年度の割合より増加していること	
	市民アンケートで、市民が、北九州市の港や海辺について満足している割合をモニタリングします。(調査は、毎年度行います)				
	(最終目標と目標年度) 75%(平成32年度)				

活動計画	どうやって目的を達成するか	「新・海辺のマスタープラン」は計画の策定から5年が経過しており、これまでの各事業の進捗状況を検証するとともに、毎年度行なっている上記市民アンケートとは別に、市民ニーズの把握のアンケート調査を行ない、社会経済情勢の変化や市民意識の変化を踏まえた計画の見直しを行なうことで、本プランをさらに推進していきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)		上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標
	市民ニーズ把握のためのアンケートの実施とその結果に基づく計画の見直し		-	市民アンケートの実施と見直し案の作成
	毎年度行なっている上記市民アンケートとは別に、港や海辺についての詳細なアンケート調査を行い、その結果を元に、目標年次である32年度までの5年間で、市民の港や海辺に対する満足度をより高めていく計画にします。			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	港湾空港局	
						担当課	開発課	
						課長名	上村	
事業名	新・海辺のマスタープラン推進事業					施策番号		
						VI - 4 - (1) - ③		
事業概要	H23年5月に策定した「新・海辺のマスタープラン」における2つの目標(「利用できる海辺を増やす」「親しまれる度合いを高める」)を実現するための様々な取り組みについて、その検証及びプランの進捗管理等を行います。					事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費		目安の金額	課長 0.06 人 係長 0.25 人 職員 0.50 人
		1,642 千円	千円				6,940 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	平成25年度の評価結果を受け、市民の港や海辺に対する満足度が高まるように、市民が海や港に接する機会を増やし、魅力を感じるきっかけを作るなど、幅広い施策に取り組んでいく必要があると考えます。	見直し内容
			「新・海辺のマスタープラン」は平成23年度から10か年の計画ですが、計画の策定から5年が経過する27年度に、社会経済情勢の変化や市民意識の変化など踏まえ、計画の中間見直しを行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民および、北九州市の港や海辺を訪れる来訪者	多くの人々が、海辺を舞台に憩い、学び、遊ぶことのできる魅力ある海辺を目指します。	27年度実績	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 市民が、北九州市の港や海辺について満足している割合 市民アンケートで、市民が、北九州市の港や海辺について満足している割合をモニタリングします。(調査は、毎年度行います) (最終目標と目標年度) 75%(平成32年度)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 33.6 %	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
			平成26年度の割合より増加していること		

活動計画	どうやって目的を達成するか 「新・海辺のマスタープラン」は計画の策定から5年が経過しており、これまでの各事業の進捗状況を検証するとともに、毎年度行なっている上記市民アンケートとは別に、市民ニーズの把握のアンケート調査を行ない、社会経済情勢の変化や市民意識の変化を踏まえた計画の見直しを行なうことで、本プランをさらに推進していきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 市民ニーズ把握のためのアンケートの実施とその結果に基づく計画の見直し 毎年度行なっている上記市民アンケートとは別に、港や海辺についての詳細なアンケート調査を行い、その結果を元に、目標年次である32年度までの5年間で、市民の港や海辺に対する満足度をより高めていく計画にします。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 -	27年度目標	27年度実績(達成率)
			市民アンケートの実施と見直し案の作成	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	港湾空港局	
						担当課	物流振興課	
						課長名	三ッ廣	
事業名	北九州港集貨航路誘致事業					施策番号		
						VII - 2 - (2) - ①		
事業概要	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行います。					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費		目安の金額	課長 1.00 人 係長 1.80 人 職員 5.00 人
		68,179 千円	千円				67,000 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	平成25年における北九州港海上出入貨物取扱量は、10,053万トン(前年比101.7%)となり1億トンの大台を超え、平成27年目標に向けて順調に成果が表れています。コンテナ貨物取扱量に関しては、48万8千TEU(前年比96.4%)とこの数年横ばいで推移しています。	見直し内容 従来の活動に加え、荷主企業により異なる物流ニーズに対し、輸送形態も含め柔軟な集貨活動を行います。特に新規立地企業に対する物流提案に力を入れるなどして、北九州港の利用拡大を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 北九州港	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 物流改善等による北九州港への貨物集約(集貨)、背後地への企業進出による新規貨物の創出(創貨)、北九州港へ寄港する船会社・航路の増加(航路誘致)を目指します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	北九州港海上出入貨物取扱量(暦年)	10,053 万t	10,900 万t		
	様々な物流振興施策を実施することで、港湾貨物取扱量の増加を図ります。この目標値は、「北九州市物流拠点化戦略基本方針」に定められています。				
	(最終目標と目標年度) 10,900万t 平成27年				

活動計画	どうやって目的を達成するか 荷主・船社のニーズの把握や、そのニーズに即応する体制を強化するとともに、北九州港利用促進のため、創貨の観点も踏まえ、引き続き集貨や航路誘致を着実に進めます。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	船社、荷主等への企業訪問件数(単年度)	270 件	300 件		
	積極的な企業訪問を実施し、荷主や船社の動向を把握すると同時に、関係する企業との信頼関係を構築していきます。その結果、北九州港における貨物量の増加や航路充実の実現を目指します。				
	北九州港プロモーション活動参加者数(単年度)	679 人	800 人		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点